

# 文化財表示板について

宇都宮市では、歴史や文化財を次世代に伝えるとともに、歴史の薫りのする魅力あるまちを創造するために、市内を8つのエリアに分け、文化財表示板を設置しています。

## F 日光街道沿い地区

エリア名称：『時代を刻む道 日光街道』



日光街道沿い地区を代表する文化財である彫刻屋台を図案化したものです。

## G 河内・上河内地区

奥州道中と伝統文化の里



## B 大谷地区

石の里



## E 北山・長岡地区

まほろばの里



## A 市中心部地区

宇都宮の軌跡



## C 根古谷・市南部地区

古代史の回廊



## D 市南東部地区

武士の夢ヶ原



### ◎説明サイン

文章や写真・絵図で、指定文化財を紹介しています。



### ◆誘導サイン

コース沿いの見どころの近くや道路が分岐する付近に立っています。矢印と文字で行き先を案内します。



(平成25年 3月)

## 飯山の獅子舞【安蘇神社】 A・3



飯山の獅子舞は、獅子頭をかぶって舞う踊りで、笛の音に合わせて、腹についた小太鼓を打ち鳴らしながら、太夫獅子・雄獅子・雌獅子の3匹で舞う一人立三匹の獅子舞です。五穀豊穡、悪霊退散、雨乞い、町内安全などの願いを込めて安蘇神社に奉納されます。

この獅子舞は、天下一閩白流と称し、延喜年間(901~922)に高座山にこもって村人を苦しめた山賊を追討した鎮守府將軍藤原利仁の伝説にちなんで舞がおこったと言われています。

毎年8月16日ごろに行われています。

[昭和46年11月24日 市指定]

## 篠井の金掘歌【B・4】



篠井の金掘唄は、水戸の佐竹氏が支配していた篠井金山で、坑夫たちによって歌われたのが始まりであるという伝承があります。その後、時代を経るごとに歌詞、節とも変化し、今日に伝わっています。

なお、金掘唄が形を変えた草刈唄も、現在、篠井地区に伝えられています。

[昭和38年3月5日 市指定]

## 上横倉の獅子舞【多藤神社】 C・6



上横倉の獅子舞は、獅子頭をかぶって舞う踊りで、腹に小太鼓をつけ、笛の音に合わせて太鼓を打ち鳴らしながら、雄2匹雌1匹で舞う一人立三匹の獅子舞です。五穀豊穡、悪霊退散、家内安全などの願いを込めて奉納されます。

この獅子舞は閩白流を名乗り、毎年8月15日に多藤神社で行われます。現在、後継者の育成にあたっては、地域をあげて、特に子ども会を中心に熱心に行われています。

[平成3年2月22日 市指定]